

会計情報

大鹿 智基 教授

1) 担当教員の専門分野(研究領域)・現在の研究テーマ

会計情報のあるべき姿を明らかにするため、会計情報に対する株式市場の反応を実証的に分析している。特に、効率的市場が成立していることを前提とし、会計情報と企業価値との関連性(価値関連性)を観察することで、会計情報の意思決定有用性を確認する研究を進めている。さらに、企業のビジネスモデルの変化に伴って企業のステークホルダーが多岐に亘るようになり、企業価値の決定要因(バリュー・ドライバー)が人材や環境対策など、従来の会計情報では扱わない要素へシフトしつつあることを受けて、新たな会計情報の候補となる非財務情報の価値関連性に関する実証分析をおこなっている。

2) 指導方針

修士課程修了後に博士後期課程へ進学し、研究者になることを志す学生に対しては、今後中長期的に必要となる研究能力の素養を身に付けるため、経済学、統計学、ファイナンスといった、会計情報や企業価値評価と密接に関連する周辺領域の素養を身に付けるとともに、視野の広い研究が可能となる問題意識を持った人材育成を目指す。その上で、その問題意識の中の一部の解決につながるような修士論文が執筆できるよう指導する。

また、研究者以外の進路を志す学生に対しては、修士課程の期間内に解決可能な研究テーマを設定し、その解決のために必要な素養を身に付け、いかなる進路を選択しようとも社会にとって有用となる人材の育成を目指す。研究者を志す学生と比べ、研究テーマとしては小粒になる可能性もあるが、物事の深層を探索し、新たな知見を得るための方法論を学習することで、情報を収集し、それを的確に処理して判断できる、グローバル・リーダーとして相応しい人材を育成できるよう指導する。

3) 学生に対する要望・その他

大学院における学習は、単なる知識・技術の習得にとどまらず、解のない問いに対し、持っている知識や経験に基づいた合理的な意思決定ができるための能力を育成することに主眼がおかれている。知的な好奇心、問題への解決策をひねり出そうとする粘り強さ、さらに新しいことに挑戦する貪欲さを有している学生の入学を希望する。統計的知識やデータ処理のためのスキルが入学時点において卓越している必要はないが、足りない部分を自覚する謙虚さと、それを補おうとする積極性は必要である。